

つながる無人販売所と大きな屋根

〈着想〉

〈無人販売所〉

無人販売所は、日本特有の信頼や安心が今も残る空間である (fig.1)。一方で、無人販売所の多くは目的を同じとしていてもそれぞれが独立し、その仮設建築物としてのクオリティーも様々である。

〈フェスティバル〉

昨今の「食の安全」問題を背景に、有機農業者を中心に農業からライフスタイルを見つめなおすフェスティバル「オーガニックフェスタ」が全国各地で開催されている。しかし、フェスティバル空間はイベント業者からレンタルしたテントを使用した味気ないものになっていると感じていた (fig.2)。

〈屋根〉

無人販売所とフェスティバル空間の共通点として、農作物を扱っていること以外に〈屋根〉を持った仮設建築物であることが挙げられる。ここに提案の余地があると考えた。

〈建築学生団体・ワークショップ〉

現在、全国で建築学生による学生団体の設立が相次いでおり、インターネットを活用した活動や提案レベルでのワークショップが頻繁に行われている。一方で、現在の建築学科の教育には木造のカリキュラムが組み込まれていないため、実際に作ろうという段階にまで進めないことが多いという状況をよく目にする。

〈提案〉

〈建築学生ワークショップ〉で〈無人販売所〉を農家の人たちと協働して設計・施工し、〈フェスティバル〉という定期イベントで点在する無人販売所を一箇所に集め、一つの大きな〈屋根〉を作る。

〈展開〉

〈つながる〉

遠く離れた無人販売所にゆるいつながりが生まれ、それぞれの土地に合ったモノになったり、時には競争のようなことが生まれたりするかもしれません。何よりも、フェスティバルなどの定期イベントで集まった農家同士につながりが生まれ、そこで何か面白いことが生まれたりすれば良いと思います。

〈県下無人販売所 MAP〉

どこにどんなカタチの無人販売所があって、誰が作ってて、何が売ってるのかをまとめた MAP を作成することで、特色が無いと思われていた場所にも価値が生まれ、人々が来てくれたらと考えています。



fig1 道路沿いの無人販売所



fig2 レンタルテントで構成された会場